



2021/12/20(Mon.)
考古天文学会議@吉野ヶ里歴史公園



月見の風習

-中秋と十三夜を中心に-

古屋 昌美

(向日市天文館/鳥取市さじアストロパーク
枚方市野外活動センター)



はじめまして &
ご無沙汰しております。

→1996年6月～2014年11月
和歌山県日高川町
「かわべ天文公園」
(1m望遠鏡・プラネ・宿泊施設) 研究員

→2014年12月～2017年3月
伊丹市立子ども文化科学館

→2017年4月～現在
枚方市野外活動センター

向日市天文館

会計年度任用職員

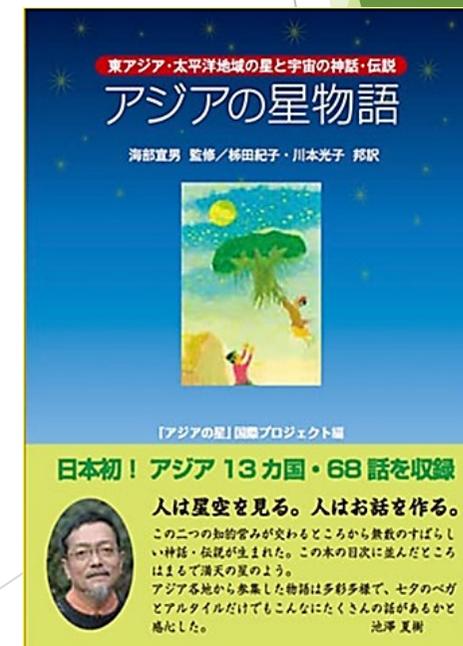
鳥取市さじアストロパーク

会計年度任用職員

…etc.

早い話が「流しの天文屋」です

- 七夕や月見等の風習
(七夕ろうそくもらい、月見団子の全国調査等)
- 和名調査のお手伝い



月々に月見る月は多けれど
月見る月はこの月の月

月は毎月出ているし、いつでも仰ぎ見ているけれど
「月を見る」のはこの月の月。



・
・
・

歌の中の「月」はいくつある？



「月」という天体

地球の唯一の衛星
太陽系の衛星の中で5番目に大きい
人類が到達した唯一の地球外天体



直径：3474km（地球の約1/4）
質量： 73.5×10^{18} t
（地球の約1/81）
地球からの距離：約38万km
公転：約27日
自転：約29日



古代人と「月」

欠けた部分のない（ように見える）まるい 月

「完璧」「円満」→「豊かさ」「長寿」…プラスのイメージ

『^{しゅうらい}周礼』(儒教の経典・偽書説もあり)の中に
「**中秋**」という言葉が初めて登場

民間で月見が行われるようになったのは
魏・晋の時代
唐代以降 祝日「中秋節」→現代に至る

唐の文人・^{おうようせん}欧陽詹の「月の詩」

「冬の月は霜繁くして甚だ寒い、夏の月は雲蒸して甚だ暑い、秋八月の月は暑からず寒からず、天気も清澄で賞翫するに最もよく人々之を賞す」（『年中事物考』）





平安貴族の観月の宴

島田忠臣(828-892) 菅原道真の師の1人

『田氏家集』に収められた
「八月十五夜宴月」
「八月十五夜惜月」と題された漢詩

「八月十五夜の月を賞すること、島田忠臣の集にはじめて見えたり」（『古事類苑』）

歌人・三十六歌仙 凡河内躬恒（859?-925?）

『躬恒集』延喜19(919)年9月13日

「ももしきの大宮ながら八十島を
みる心地する秋の夜の月」

康保3（966）年 村上帝の催した観月の宴



庶民のお月見

江戸初期…芋を煮て食べる

『俳諧歳時記』(1803年)
御神酒と尾花を月に供え、
団子と芋と豆を盛り、
またそれを互いに贈り合う。
また必ず芋を食べるので
『芋名月』という…



類聚近世風俗志(守貞漫稿)
〈国立国会図書館デジタルコレクション〉

江戸の観月の名所のひとつ、上野・不忍池



お月見のススキ (薄)



イネ科の植物。
萱（かや）尾花（おばな）
とも呼ばれ、ほぼ全国で見られる。
かつては萱ぶき屋根の材料にしたり、
家畜のえさとしても使われていた。



飾ったススキは、お月見が終わった後も
捨てず庭にさしたり、水田にさす

鋭い葉や切り口を持つため
竹笹のような魔除け・厄払い

「稲が丈夫に育つように…」



お月見 イモ

サツマイモ

×

サトイモ

○



お月見は畑の収穫を祝う祭り
畑の収穫物＝芋。

稲作が盛んになる前より
アジア諸地域での重要な主食
中秋のころから収穫期がはじまる。

「後の月（十三夜）」は稲の収穫祭として
ひと月遅れで生まれたという説も。



お月見 団子

元はそれぞれの家庭で作るもの。
必ずその年にできた米や穀物を混ぜる地域も。
丸いカタチ=月
地域によって形状は様々



飾る数
十五夜なので… 15
1年の月の数だけ… 12
(閏年は13)



お月見 うさぎ

月の模様＝「お餅をつかうさぎ」
(韓国では薬をつくっている)

「月にはうさぎが住んでいる」
中国・韓国・インド・モンゴル・中央アメリカなど
日本には中国より

「玉兔（ぎょくと）」 → 中国では月を指す (金烏＝太陽)

古代マヤ人が使っていたお皿 → 膝にうさぎを抱いた月の女神の絵

インドの昔話
ジャータカ → 空腹の老人（帝釈天の化身）の
ため、火の中に飛び込んだうさぎが
月に住む

男性的・陰陽の陽
太陽

女性的・陰陽の陰
月

子どもをたくさん産むいきもの

妊娠や出産といった
生命のつながり





ところ変われば

相撲・綱引き

鹿児島（薩摩半島中心）

ソラヨイ 子どもたちが大綱をつくり、月の出とともに綱引きをする。綱を作る時に「ソーラヨイ」と声をかけて綱をつくっていく。「綱にさわったり、綱引きに参加すると1年風邪をひかない」とされた。また、綱引きの後に相撲を取る。

中之島・口之島（鹿児島県トカラ列島）

鹿児島本土と同じように相撲・綱引きをした。昔はカズラで綱をつくった。いたずらで切れやすいように作ったりもした。



鹿児島県知覧町のソラヨイ
（南薩摩の十五夜行事は国の無形民俗文化財）



ところ変われば

ススキを利用した風習

- * 十五夜の晩には茅の箸で食事をする（埼玉県）
- * 十五夜の膳に茅の箸を供える（東京都）
- * 茅で箸を作り、赤飯を炊いて食した（神奈川県）
- * 茅で作った箸を15組供え、子どもたちが各家をまわって茅箸で野菜ごはんを一口ずつ食べる（山梨県）

使い終わったススキはどうする？

- * 大根畑や他の野菜畑にさしておく（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県）
- * 家の門口や垣根にさしておく（栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、千葉県）
- * 稲荷さまへ供える（群馬県）
- * 庭の木にしばりつける・川へ流す・道路の辻におく（埼玉県）
- * 屋根の軒などにさしておく（埼玉県、東京都）
- * 燃やして灰にし、人が踏まない場所に埋める（千葉県）
- * 庭にさしておく（神奈川県）



ところ変われば

獅子舞もします

- * 江戸期から地域に受け継がれる伝統の獅子舞を奉納（静岡県下田市）
- * 十五夜の前夜（旧暦8月14日）「虎舞」と呼ばれる舞を奉納（静岡県南伊豆町）
- * 子どもたちが各家をまわって獅子舞（シーシャガウガウ）をする。
古くは子どもたちが各家をまわり、厄払いをしていた。（沖縄県宮古島）

ちょっと七夕みたい

- * 十五歳を迎えた女の子が月明かりの下で針に糸を通してぬか袋を縫うとお裁縫が上手になる（岡山県岡山市）
- * 月の光で針に糸を通せたら裁縫が上手になる（北海道江差町）

のぞいたら願いがかなう？

- * サトイモに穴をあけ、穴から月をのぞいて願い事をするとかなう。
（大阪府堺市・河内長野市）

お月見…それって何ですか？

- * 周辺や郷土史を調べてもお月見の風習や、記録がない。
お供えも行事もなかったが、現在は行っている家庭もある。（香川県小豆島）



「お月見泥棒」

お月見の日は泥棒OK？
「月見泥棒」

「片足御免」(秋田県)

どこの畑の作物でも
ひとつもらってよい。
ただし、取っていいのは
畑に1歩踏み出した範囲だけ



(C) JPSLA

十五夜や十三夜にお月見のお供えや畑の作物
を取ってもよいとされた。
子どものみが基本だが一部地域では大人も可

- 声をかけてもらう「お月見ください」
- 気づかれないようにそーっともらう

飾っていたお供え物がなくなる



お月さまが持って行ってくださった
(うちのお供え物を喜んでくださった)

来年も豊作まちがいなし

北海艘江差町・福島県白河地方・茨城県岩間町・日立市・千葉県君津市・富津市・木更津市・東京都多摩地区・山梨県甲府市・静岡県浜松市・下田市・三重県四日市市・桑名市・鈴鹿市・愛知県名古屋市・一宮市・日進市・東郷町・長久手町・奈良県生駒市・大阪府岸和田市・四条畷市・大分県大分市・etc...



十三夜と「片月見」

十三夜
(後の月)

中秋の約1ヶ月後、旧暦9月13日の月。

藤原宗忠(1062-1141)の日記『中右記』

延喜19(913)年9月13日の月を
宇多帝(このときすでに譲位し法皇) ”

「今夜雲浄ニシテ月明シ、是寛平法皇(宇多法皇)
今夜明月無双ノ由仰セ出サレ云々、仍チ我朝九月十三夜ヲ
以テ、明月ノ夜ト為ス也、」

三十六歌仙 凡河内躬恒
家集に十三夜の月を詠んだ歌

「ももしきの大宮ながら八十島をみる心地する秋の夜の月」



十三夜と「片月見」

片月見とは

中秋を見たら十三夜も見なければ
「片月見」として忌まれた

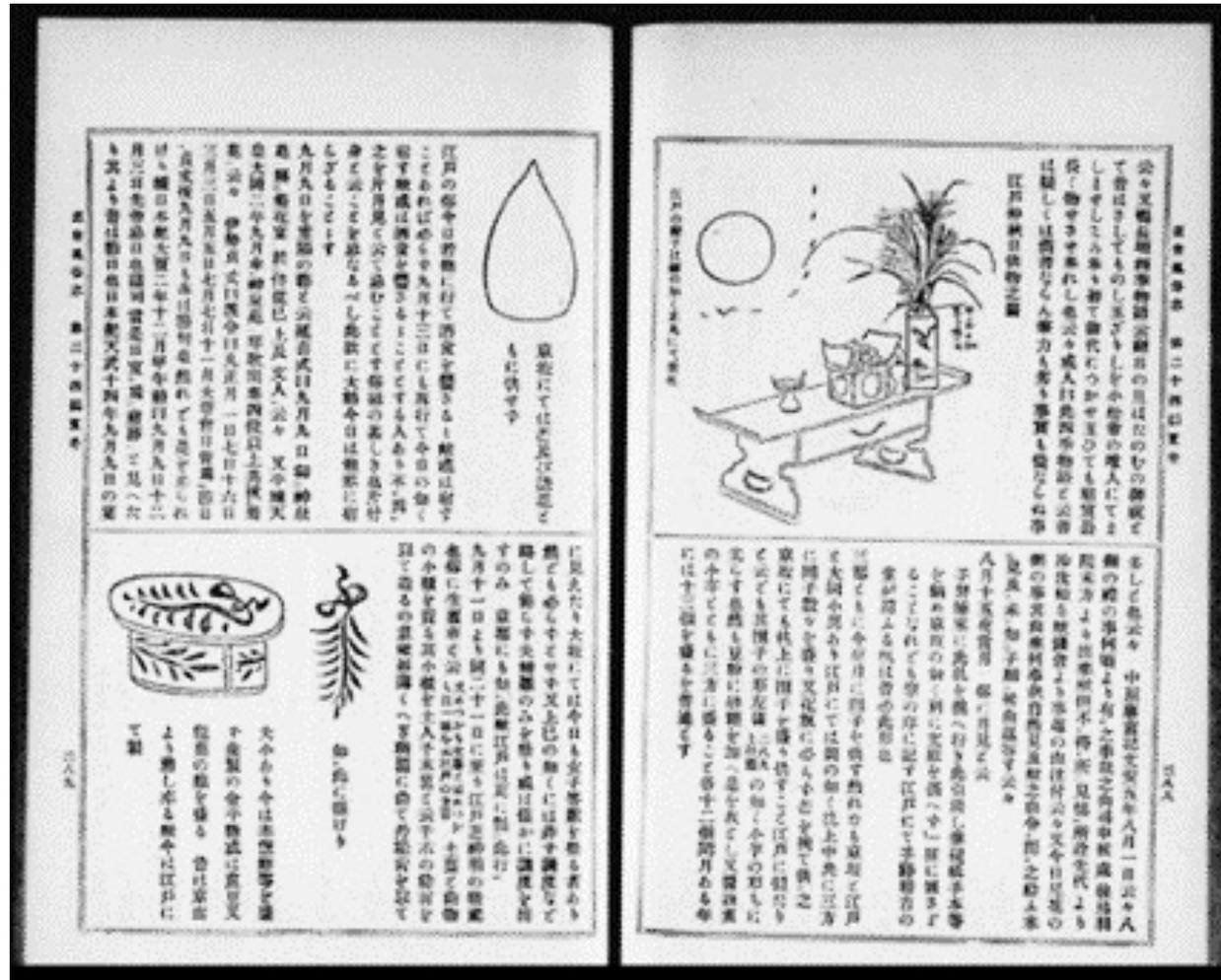
”

栃木県、茨城県等で採取
…農耕が盛んな地域では翌年の豊作を占う

遊興としての観月が盛んになった江戸では遊興地でのお約束



十三夜と「片月見」



類聚近世風俗志（守貞漫稿）片月見の記述箇所
〈国立国会図書館デジタルコレクション〉



「十日夜」と「亥の子」

十日夜
(とおかんや)

旧暦10月10日の夜におこなう農耕儀礼。

(2021年は11月12日)

この日までに稲刈りはすべて終わり、
山へ帰る田の神を月を見ながら見送る日とされた。

子どもたちが藁鉄砲と呼ばれるもので地面を叩き
(田の神をカづけるとも、モグラ等の害獣除けとも)
家々を回り歌を歌い、ご褒美や金銭をもらう
(獅子舞のように門付の意味合いを持つ)

歌の歌詞は地域ごとにバリエーションがあり
東日本を中心にひろくおこなわれた。

ま静岡県の東部では十日夜の月が沈むまで
仕事をするとお金持ちになるという言い伝えも。



「十日夜」と「亥の子」

亥の子
(いのこ)

旧暦10月（亥の月）の亥の日におこなわれた風習。

（2021年は11月7日）

藁鉄砲や亥の子石と呼ばれる石で地面を叩きながら

歌を歌い家々をまわる。

西日本を中心に見られるが、北海道や東日本でも十日夜と混在する地域がある。



亥の子餅(右)と
火炊き饅頭(左)



SNS(Twitter)を使った情報収集



Masami Furuya

@stellamallis



(拡散希望)勇気を出してお願いします。あなたの地域のお月見団子教えてください。画像があればなお嬉し。××県××市まで教えて頂けると助かります。現在執筆中の書籍『日本の星めぐり(仮題)』のお月見の項目で画像を紹介させて頂く際はご連絡します。

[#うちのお月見団子](#)

どうぞよろしくお願いします！

午後3:35 · 2020年9月29日 · Twitter for iPhone

2020年に呼びかけてみる

→ 中秋から十三夜の間で約50件

画像も何件か寄せられる (珍しいものは掲載許可を頂く)



SNS(Twitter)を使った情報収集



Masami Furuya @stellamallis · 9月14日

きゃー☆どなたか気を利かせてくださったのか早速今年のツイートをRTをいただきちゃってますね、ありがとうございます！もし、よろしければ今年のお月見団子は [#ウチのお月見団子2021](#) でお寄せいただくとありがたいです。昨年と同じハッシュタグでくださってもOKです。今年には地図作りに挑戦予定☆



Masami Furuya @stellamallis · 2020年9月29日

(拡散希望)勇気を出してお願いします。あなたの地域のお月見団子教えてください。画像があればなお嬉しい。××県××市まで教えて頂けると助かります。現在執筆中の書籍『日本の星めぐり(仮題)』のお月見の項目で画像を紹介させて頂く際はご連絡します。
[#ウチのお月見団子](#)
どうぞよろしくお願いいたします！



Masami Furuya
@stellamallis

[#中秋の名月2021](#) まであと2日。月見団子と言えば「月見泥棒」の風習がある&あった地域はおありでしょうか。関東では埼玉県川越のあたりなど。子どもたちがお団子をとる=お月様が団子を持っていかれた=来年の豊作が約束された...ということに。東北や関西でも三重県などで聞いております。(続く)

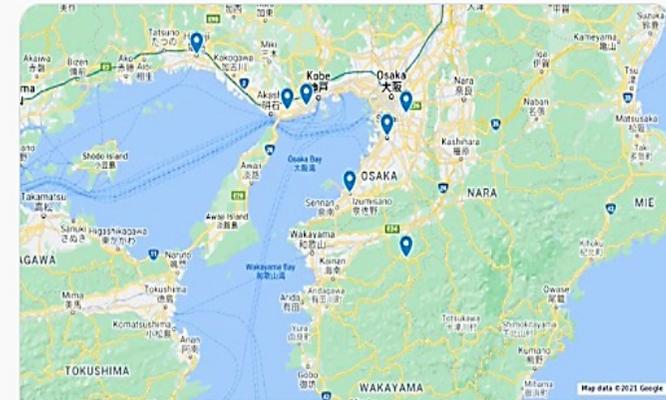
午前1:37 · 2021年9月20日 · Twitter Web App



Masami Furuya @stellamallis · 9月19日

「全国お月見お団子マップ」
昨年にお預かりした分も含めてざざっと打ち込んだものを試験的に公開です。今後もどんどん手を入れていきます。昨年くださった方も追加情報大歓迎 ✨変更等もお気軽にお寄せください。ご参加お待ちしております(^-^)/

全国お月見団子調査2020-2021



google.com

全国お月見団子調査2020-2021 - Google My Maps

全国津々浦々の様々な「お月見団子」を皆さまにご協力いただいて地図にまとめちゃおう！という個人的企画です。現在、作者が執筆協...

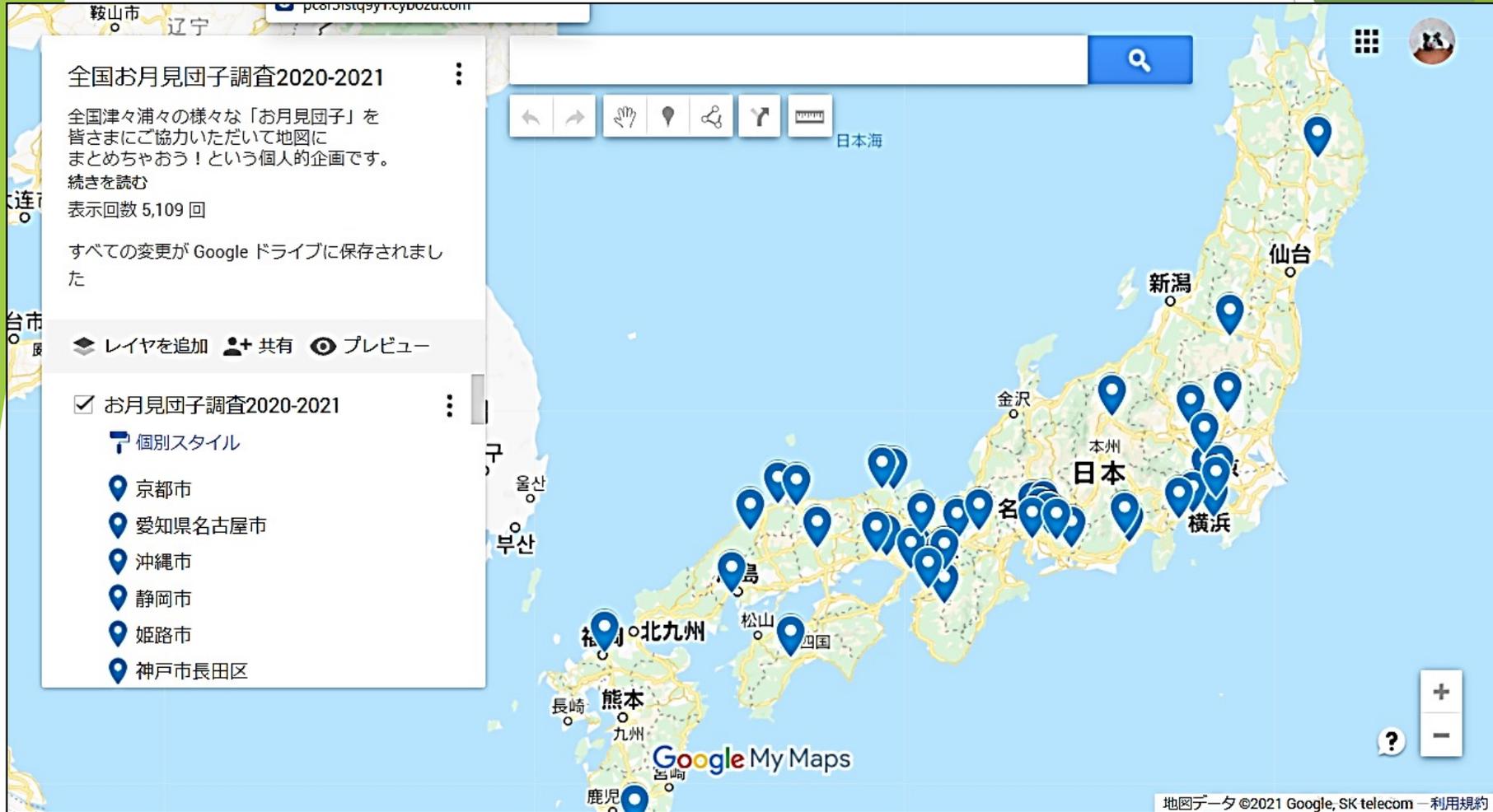
📍 62 🍷 79 📄

呼びかけてみる
+ グーグルマップ

作成



全国お月見団子調査2020-2021



50地点80件超の情報

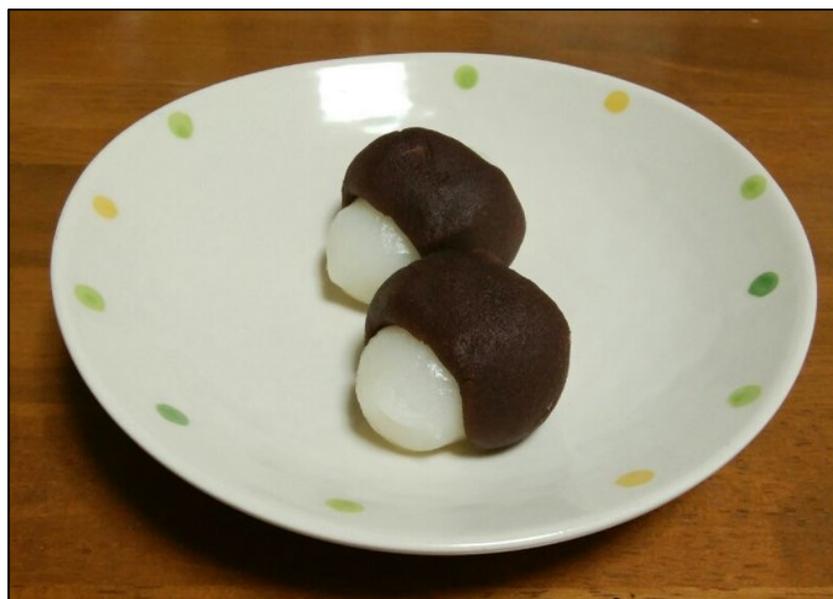


全国お月見団子調査2020-2021





全国お月見団子調査2020-2021





全国お月見団子調査2020-2021



<引用・参考文献>

太陽と月 =古代人の宇宙観と死生観= 民俗文化大系2 小学館

星の文化史大辞典 出雲晶子 白水社

月の誘惑 志賀勝 はまの出版

月と暮らす本 高橋典嗣 監修 洋泉社

日待・月待・庚申待 飯田道夫 人文書院

日本童謡伝承集成 第五巻 催事唄・雑謡 北原白秋 編

江差町史 第六巻通説二

コトバンク<https://kotobank.jp/>

星の民俗館（三上晃郎氏）HP <http://www.maroon.dti.ne.jp/starlore/>

中秋節の歴史（China Highlightsより）

HP <https://www.arachina.com/festivals/mid-autumn-festival/history.htm>

お月見泥棒はどこにある？（「わが街四日市」より）

HP <http://waga.yokkaichi.org/matsuri/tsukimi.html>

国立国会図書館デジタルアーカイブ

ご清聴、ありがとうございました。

お月見団子（+七夕）の情報

お待ちしております。



古屋 昌美

Twitterアカウント

@stellamallis



つきまち ～「月待」という風習～

月待とは？

特定の月齢の夜に地域の人々が寄り合って、
月の出を待って月を拝む。
何月に行われるかは地域によって様々で、
待つ月の月齢も様々。
十五夜、十七夜、十九夜、二十二夜、二十三夜…

もっとも
一般的だった
二十三夜

旧暦23日の月(いわゆる下弦)

月待の本尊 月天子(本地は勢至菩薩)
勢至菩薩の有縁日が毎月23日

旧暦11月23日の「二十三夜待」(今年は1 /25)

…冬至・新嘗祭との関連も





つきまち ～「月待」という風習～

勢至図像 月待板碑

(さいたま市浦和博物館所蔵 市指定文化財
室町時代中期 文明十七年(1485年)
緑泥片岩、高さ 106Cm 下幅 30Cm)



「皈(帰)命月天子(きみょうがつてんし)
本地大勢至(ほんじだいせいし)」
「為度衆生故(いどしゅじょうこ)
普照四天下(ふしょうしてんげ)」

月天子の本地 大勢至に帰命し奉る。
大勢至は衆生を濟度するがための故に、
あまねく 四天下を照らす。



熊野の不思議な伝説「三体月」

三体月のなりたち

中辺路・高尾山で修行していたひとりの修験者が野中（のなか）、近露（ちかつゆ）の里に降りてきて、「11月23日の月が出たとき、高尾山の頂きで法力を得た。村の衆も11月23日に高尾山に登り、月の出を拝むがいい。三体の月が現われる」と里人に告げ、立ち去った。

里人たちは真偽を確かめるため、翌年の11月23日に幾人かの里人が高尾山に登り、もし三体の月が出たら山頂からのろしを上げて里に知らせることにした。月が出たが、里からはいつもの通りの月。しかし山頂では一体の月が出ると、その左右からも一体ずつ月が出た。これを見た人々は里へ知らせるためにのろしを上げた。これを見た里人たちは、顔を見合わせ、不思議な山と修験者のことを語り合った。このことがあってから、毎年11月23日の夜には高尾山に登り月待ちを行うようになった。



熊野の不思議な伝説「三体月」

和歌山県 田辺市中辺路





熊野の不思議な伝説「三体月」

長寛勘文（1163）「熊野権現御垂迹縁起」

三体月は
熊野の神？

熊野本宮（大湯原）にある櫟の木に三つの月の姿として天降ったものを「三所権現」と言う。
大猪を追っていた猟師・干与定（犬飼・于與定）が発見した。

<熊野三神> 家都御子神 速玉男神 夫須美神



三体の月は…

本地垂迹（ほんちすいじゃく）

<阿弥陀三尊> 阿弥陀如来 勢至菩薩 観音菩薩



熊野の不思議な伝説「三体月」

三体月を
見に行こう

中辺路観光協会



<http://www.nakahechi.jp/index.html>
TEL : 0739-64-1470 (熊野古道館)

本宮町観光協会



<http://www.hongu.jp/>
TEL : 0735-42-0735 (世界遺産熊野本宮館内)